

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年3月26日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2793400025
法人名	社会福祉法人 邦寿会
事業所名	グループホームどうみょうじ高殿苑
所在地	藤井寺市道明寺3丁目2-2 (電話) 072-936-3515

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成21年3月12日

【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年4月24日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤	8人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	4階建ての	2階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	83,700円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 120円
	または1日当たり 780円		

(4) 利用者の概要(平成21年2月1日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	5名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 80.3歳	最低	65歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人医真会八尾総合病院、はざま歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に恵まれた広大な敷地内に、社会福祉法人が運営する複合型介護施設があり、その一部門としてグループホームがあります。グループホームの他には特養やデイサービス、ホームヘルプセンター、ケアプランセンター、ケアハウス等が併設されています。「笑顔と思いやり、共に暮らし、安らぎと喜びを分かち合う」を理念とし、職員は家族や地域の人達の協力を得て、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向に沿うよう支援し、やさしい雰囲気です。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 今回は初めての外部評価の受審です。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は施設長とフロアリーダーで案を作り、回覧して職員の意見を取り入れ、認識の共有化を図り、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は市職員、地域包括支援センター職員、市介護相談員、地域の代表、知見者、家族の参加のもとで、2ヶ月毎に開催しています。会議ではホームの活動状況や行事、利用者の生活ぶり等を報告しています。地域との交流を深めるため、地域の行事への参加やボランティアの募集について意見交換をしています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族との面会時には、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の医療や安全に関わる事項については、その都度電話で家族に報告しています。定期的に利用者の近況について報告するため「グループホーム便り」を発行し、家族に送付することを検討しています。家族とは面会時だけでなく、運営推進会議や介護計画作成前のサービス担当者会議でも話し合い、家族が思いや希望、不満を表せるように対応しています。ご意見箱も設置して家族が意見を表出できる機会を設けています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 法人が主催する夏祭りやオーケストラ演奏会、地域と共催する高齢者食事会、健康講座などには、地域行事として多くの人達が参加する交流の場となっており、ホームの利用者も参加しています。利用者は地域の秋祭りのだんじり訪問、小学校の運動会や天満宮の行事への参加、地域のボランティアによる大正琴やバンド演奏、苑内喫茶を楽しんでいます。

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔と思いやり、共に暮らし、安らぎと喜びを分かち合う」を理念とし、職員は家族や地域の人達の協力を得て、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向に沿うよう支援し、やさしい雰囲気です。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が参加する定例のスタッフミーティングや毎日の業務を通じて理念を共有し、介護サービスに反映させるよう話し合っています。ただ理念は職員に配布されている「基本方針書」には掲載されていますが、日頃職員の目につくところには掲示されていません。	○	理念は事務所内等、日頃職員の目につくところに掲示することが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	法人が主催する夏祭りやオーケストラ演奏会、地域と共催する高齢者食事会、健康講座などには、地域の行事として多くの人々が参加する交流の場となっており、ホームの利用者も参加しています。利用者は地域の秋祭りのだんじり訪問や小学校運動会、天満宮の行事への参加、地域のボランティアによる大正琴やバンド演奏、苑内喫茶を楽しんでいます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての外部評価の受審です。自己評価は施設長とフロアリーダーで案を作り、回覧して職員の意見を取り入れ、認識の共有化を図り、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は市職員、地域包括支援センター職員、市介護相談員、地域の代表、知見者、家族の参加のもとで、2ヶ月毎に開催しています。会議ではホームの活動状況や行事、利用者の生活ぶり等を報告しています。地域との交流を深めるため、地域の行事への参加やボランティア募集を増やすことについて意見交換をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は藤井寺市の担当職員と相談や意見交換を行っています。市主催の事業者連絡会にも参加しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との面会時には、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の医療や安全に関わる事項については、その都度電話で家族に報告しています。また、定期的に利用者の近況について報告するため「グループホーム便り」を発行し家族に送付することを検討しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時だけでなく、運営推進会議や介護計画作成前のサービス担当者会議でも話し合い、家族が思いや希望、不満を表せるように対応しています。ご意見箱も設置して家族が意見を表出できる機会を設けています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームを開設して1年余りですが、職員の退職はありません。介護福祉士の資格取得者が多く、高い志を持って、利用者に優しく接しています。利用者の認知症状はすすんでいますが、ゆったりと落ち着いて暮らしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は開設時に全職員に対し総合的な研修計画を立て、内部講師だけでなく外部講師も招いて、介護の基本や認知症、感染症、人権などのテーマについて研修を実施しています。また、法人は「職員を大切に」「人としてのスキルアップ」の方針のもと、研修センターを設置して準備を進めています。しかし、ホーム内には定例的な研修の仕組みがなく、繁忙なこともあり、外部研修にも出かける状況までには至っていない状況です。	○	職員の研修については年間計画をたて、「感染症」「緊急時対応」「認知症」のテーマを含めて年6回以上実施することが求められます。うち2回以上は外部研修を実施することが求められます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	藤井寺市の事業者連絡会に参加しています。ホーム開設にあたり、近隣他市のグループホームと交流研修会を実施しました。ネットワークとして大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加入する予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には職員が入所施設や家庭を訪問し、利用者の家庭環境や生活歴などを把握しています。また本人や家族にホームへ来訪してもらい、他の利用者との交流の場をつくることでホーム内での馴染みの関係をつくり、家族や本人の不安を取り除き、安心して入居しサービスを受けられるように取り組んでいます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	利用者の認知症状が重度化しているため難しさがありますが、職員は利用者と共に過ごし、学び支えあう関係を目指した支援の努力をしています。園芸の得意な利用者とは、開設祝いでいただいた「ランの花」の手入れを職員と一緒にしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使って、入居時の家族や利用者からの聞き取りで利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント情報や利用者の現在の暮らし、心身の状況を把握するとともに、医師や看護師の意見、家族の意向を聞き、利用者と家族の意向・願いを反映した介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的には3ヶ月毎に、また状態の変化がある時はその都度見直しを行っています。ケアマネジャーはケース記録や毎月のスタッフミーティングの結果を踏まえ、1ヶ月毎に介護連絡表を使ってモニタリングを行い、3ヶ月毎にケアチェック表を使ってモニタリングを行っています。また家族と利用者も参加するサービス担当者会議を開いて、家族の意向、医師や看護師の意見も聞いて介護計画の見直しにつなげています。しかし各利用者を担当している職員のモニタリング記録がなく、今後検討することが望まれます。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設特養の看護師との連携により必要な看護を受けています。法人として地域と一緒にあって高齢者の食事会を催したり、健康講座を開いたりしています。地域のボランティアに楽器演奏や喫茶店などの楽しみごとを提供してもらっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、入居以前からかかりつけの医師より医療を受け、職員は家族の要請のある時、通院介助を行っています。協力病院と連携し、夜間や急変時の対応についての体制も整備されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在対象者はありませんが、重度化しつつある利用者と家族、医師と絶えず話し合い、情報の共有化を図りながら、状況の変化に対応していく予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員は言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。職員採用時には、個人情報の取り扱いについて法人と書面を取り交わしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮し、利用者のペースでゆったりと暮らせるよう支えています。職員が利用者を制止したり、急かしたりする言葉はなく柔軟な対応をしています。朝食や入浴などの時間について、利用者のペースを大切にしながら支援しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	母体法人の厨房で調理した真空パックは、減塩食でかつ食材が柔らかくなるため、ホームの食材としても提供しています。職員は利用者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをさりげなく行い、会話をしながら楽しくなごやかな雰囲気を作っています。月1回は利用者も参加して利用者の好みの食べ物を作り楽しんでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	重度化している半数の利用者は特養の機械浴を利用しています。その他の利用者はホームの檜風呂で、いずれも週2回の入浴を楽しんでいます。	○	利用者が週に3回はゆっくりと寛いで入浴できるよう、体制整備と雰囲気作りが求められます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	重度化している利用者が多いため、生活の中でそれぞれの役割を果たしていただくことはかなり難しい面がありますが、利用者の中で家事や日用品の買い物、園芸作業、地域のボランティアによる楽器演奏や喫茶店に出向くなどの気晴らしをしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広大な敷地内外は自然環境に恵まれ、天気のいい日には散歩やスーパーでの買い物、馴染みの店での理美容に出かけています。季節の花見や外食にも家族も一緒に出かけ、地域の行事にも出かけて楽しんでいます。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関やフロアドアには日中施錠はなく開放されています。外出願望の多い利用者には見守りで対応しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時マニュアルを作成し、昨年11月に消防の指導で避難訓練を実施しています。近々再度避難訓練を予定しています。非常・災害時のための備蓄についても、法人として同じ棟内に備蓄しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量については全員の記録をとり、水分摂取量についても管理が必要な利用者について記録をとっています。栄養バランスについては、法人の管理栄養士よりアドバイスを受けています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	周辺が自然に恵まれた広大な敷地内にあるホームの廊下やダイニング、リビングの壁面は大きなガラス張りになっていて四季折々の景色が見渡せ、豊かな気分に入ることができます。独立して配置されているリビングとダイニングルームは広くて明るく豪華で、中庭も見え、和室もあり、ソファやテーブルもあって利用者が落ち着ける居場所になっています。ただ、室内には家具・調度品以外には家庭的で季節を感じさせる物が少なくなっています。今後はできればもう少し、季節感や家庭的な雰囲気が演出できるよう工夫されてはいかがでしょうか。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は整理ダンス、洋服掛け、収納ケース、テーブル、安楽椅子、仏壇、装飾品、家族の写真等、使い慣れた馴染みのある物を居室に持ち込み、落ち着き安心して生活を送れる空間になっています。しかし、ホーム開設後1年余りということもあり、一部の居室では持ち込みの家具等がほとんどなくもの淋しい状況です。今後は利用者や家族と相談し、家族の支援を得ながら、使い慣れた馴染みの物や生活用品を持ち込み、利用者が居心地よく過ごせる居室作りへの取り組みが望まれます。		